

このコーナーは、学生が県内企業の経営者を訪問し、企業の経営実態や求めている人材等について直接聞き取ることで、学生と企業の相互理解を促進し、雇用のミスマッチ等を解消することを目的としております。

第4回目となる今回は、山梨県立大学 国際政策学部 4年生 大木恵さんが、株式会社常磐ホテル 代表取締役 笹本森雄氏を取材しました。



学生

山梨県立大学  
国際政策学部

4年 大木 恵さん

## 和と洋の融合

経営者

株式会社 常磐ホテル  
代表取締役  
笹本 森雄 氏



### ▶ 学生

まず御社の概要と特色について教えてください。

### ▶ 経営者

創業は、昭和4年(1929年)10月6日、今年で84年目になります。当ホテルは、基本理念の一つに和と洋の融合を挙げています。伝統的な日本旅館の和をベースとした中に、時代のニーズに合わせたホテルの洋的要素を取り入れていくというものです。その時代ごとの生活様式に合わせる設備の導入にも力を入れつつ和と洋のバランスを取り、日本本来の和の文化を大切にしています。

当ホテルの離れは平成4年に増改築をしています。景気の良かった時代であり、本来であれば10階建てのものを作ることもできましたが、日本庭園を見渡せる数寄屋造りというものにこだわりました。こうした日本の伝統技術、美しさは時代の流れと共に少なくなり、今後作れなくなるのではないかと思います。離れまで続く廊下も長いので、冷暖房はかかせませんし、部屋の数も少なくなり、もちろん経済効率は悪いです。しかし、日本の伝統文化を受け継ぎ、そして何よりお客様に楽しんでいただく為には、譲れないこだわりであり、今では当ホテルの大きな魅力となっています。

当ホテルは、皇室の方々にご宿泊いただいていたという伝統もあります。それは、こうした空間造りに力を入れてきたことや、経験の積み重ねによる信頼関係の構築ができたからではないかと思っています。伝統におごらず、お客様・時代に合わせたサービスを日々探究してきました。日本の伝統を残しつつ時代に合わせたサービスを常

に模索することで、お客様に長年愛していただけていないかと思っています。

### ▶ 学生

学生に求める資質や人物像を教えてください。

### ▶ 経営者

明るく積極的な方がいいです。でもやはりコミュニケーション能力ですね。資質は特にいららないと思います。普通でいいんです、普通で。私たちは接客業なので、お客様に対してであったり、従業員同士のコミュニケーションが特に大事です。それには、礼儀やマナーを知っていて行動に移すということが必要です。大人になると、そういったものは誰も教えてくれません。だからこそ、学生のうちから普段の生活を見直していくといいかもしれません。そして、社会の現場では覚えていくことがたくさんあります。基礎はもちろん教えますが、現場で実際に働くからこそ身につけていく力もあるのではないのでしょうか。ホテル業界は対お客様と接していくので大変なことも多いですが、お客様に来てよかったと言われた時の感

動はとても大きいです。こうしたモチベーションをもち、様々なことを自ら学んでいく姿勢でいて欲しいですね。

### ▶ 学生

常盤ホテル様の今後の展望を教えてください。

### ▶ 経営者

最初に少しお話したように、当ホテルは、和と洋の融合と世界に通用するサービスを目指しています。そのため、お客様第一に顧客満足度の向上のため、ハード・ソフト両面での品質向上を目標としています。今後もこの目標に向かって日々まい進していくことが第一だと思っています。実は、「しおさいプロジェクト」という事業で、日本の庭園ランキングで第3位に選んでいただきました。これは、日本の庭を規模や知名度によらず純粋にその美の質によって評価するもので、900以上の中から世界各国の専門家により選出されました。この結果を励みに、今後も努力していきたいです。また、山梨文学シネマアワードなどのイベントにも積極的に参加しています。地域一体となって、魅力づくりに貢献できればと思います。

### ●取材を終えて...

経営者の方と一対一でお話しをする機会は滅多にないことなので、緊張もしましたがよい経験になりました。また、自分が就職活動中ということもあり、採用をする企業のお話が聞けたのは、大変参考になりました。特に「コミュニケーション能力」の重要性について改めて知ることができました。今回の取材を通じて、自分の就職活動を見直していければよいと思いました。貴重な体験をさせて頂き大変ありがとうございました。

